

# QST等のイノベーション拠点化の推進について (フュージョンイノベーション拠点に必要な設備の整備プログラム)

## ●事業概要・目的

「フュージョンエネルギー・イノベーション戦略」（令和7年6月改定）を踏まえ、産学官の研究力強化の観点に加えて、地方創生の観点も踏まえイノベーション拠点化を推進。

我が国において発電実証を目指すスタートアップ単体では対応が困難な共通的な技術課題（※）が存在することを踏まえ、**量子科学技術研究開発機構(QST)、核融合科学研究所(NIFS)、大阪大学レーザー科学研究所(ILE)に、アカデミアや民間企業を結集して技術開発を実施する体制やスタートアップ等への供用も可能とする実規模技術開発のための試験設備群を整備**する。3拠点が相互に連携し、役割分担をして進めていく。 ※トリチウムの取扱い、ブランケット・ダイバーターの開発、炉材料等の開発 など

## ●事業スキーム

内閣府が要求し、文部科学省において経費を執行。  
文部科学省よりQST、NIFS、ILEに対し補助金を交付（1/1補助）。

### フュージョンエネルギー・イノベーション戦略（令和7年6月改定）抜粋

#### ●QST等のイノベーション拠点化を推進すること【内、文】

世界各国が大規模投資を実施し、国策として自国への技術・人材の囲い込みが更に加速する中、産学官の研究力強化の観点に加えて、地方創生の観点から、QSTやNIFS、大阪大学レーザー科学研究所等の体制を強化し、**アカデミアや民間企業を結集して技術開発を実施する体制やスタートアップ等への供用も可能とする実規模技術開発のための試験施設・設備群を整備**する。その際、日米共同声明や日欧共同プレス声明をはじめ、国際連携を戦略的に強化することにより、三重水素の取扱技術の向上や材料の放射化などに関する知見の獲得の観点から、国際協力による科学的・技術的課題への対応や研究開発施設の共用・開発を推進する。

参考：内閣府及び文部科学省が連携して進める「イノベーション拠点化」の予算措置状況

QST		NIFS		ILE	
R6補正	核融合燃料分析整備	R6補正	高温プラズマ実験システム	R6補正	核融合燃料模擬試験装置(第1期)
R6補正	発電ブランケット用熱負荷試験装置	R6補正	フュージョン・ナノ計測基盤装置	R6補正	核融合燃料高密度圧縮装置(第1期)
R6補正	フュージョンインフォマティクス用計算機冷却設備	R7補正	超伝導技術の評価装置の整備	R7補正	連続レーザーフュージョン基盤開発装置
R7補正	燃料システム安全試験施設設備整備	R7補正	先進炉材料研究開発設備	R7補正	フュージョン反応試験装置
R7補正	ブランケット開発・試験施設設備	R7補正	スーパーコンピュータ		
R7補正	理論・シミュレーション研究支援設備	R7補正	負イオン源中性粒子ビーム整備		
R7補正	産学共同研究開発施設設備	R7補正	計測器開発プラットフォーム		
		R7補正	多価イオン実験装置		